

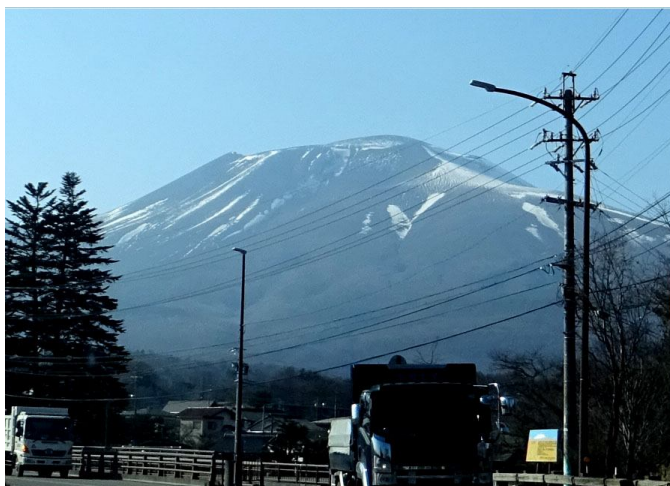
「早春の高原(1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

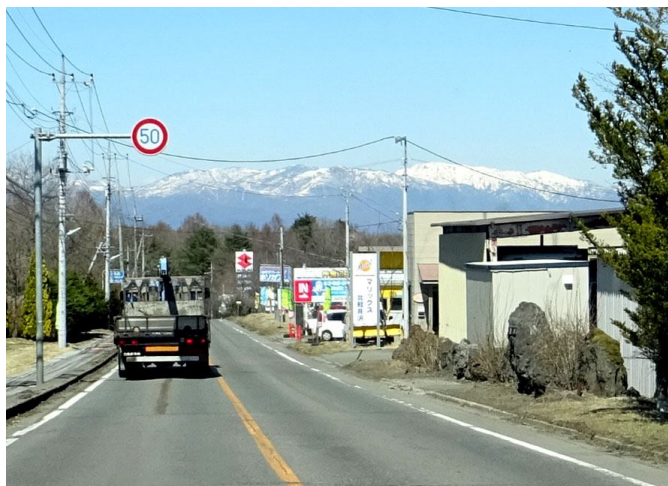
東京ではいよいよ最高気温が 25℃以上の「夏日」になりそうだが、浅間高原ではまだやっと「早春」という景色である。私は 2 ヶ月半ぶりに、浅間高原を訪れることができた。



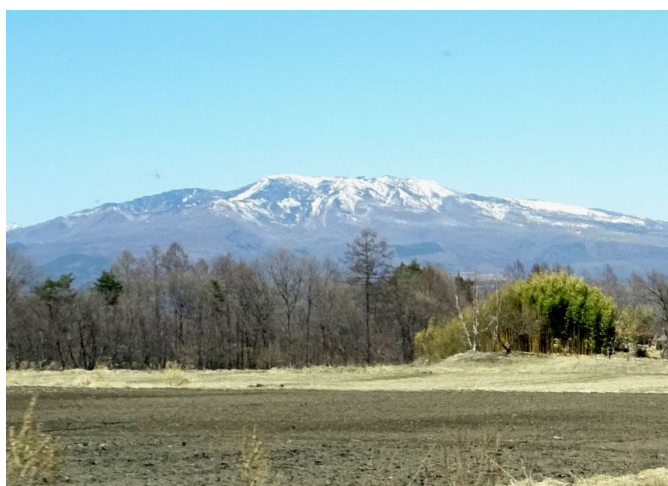
軽井沢の市街地からは、離山（はなれやま＝浅間山の古い寄生火山の一つ）が邪魔をして、浅間山はよく見えない。しかし、国道 18 号線（中山道＝なかせんどう）を小諸方面に進むと、「中軽井沢交差点」の手前、軽井沢町役場付近で、浅間山が正面に見えてくる。



このあたりから見る浅間山は南斜面なので、この時期にはほとんど雪が見られない。3月下旬に降った雪で、一旦はこのあたりからも真っ白に見えたいが、数日でほとんど融けてしまったという。国道 18 号線の中軽井沢交差点の標高は約 900m。そこで右折して国道 146 号線に入ると、ぐんぐん高度をあげ、標高約 1200m の浅間高原に通じている。浅間高原からは雪を頂いた山々がよく見えるはずだ。



北軽井沢交差点を過ぎると、上信国境（群馬と長野の県境）の連嶺がよく見える。真っ白に見えるのは「日本二百名山」の一つ「白砂山」だろう。



長野原町の応桑（おうくわ）地区まで来ると、もうすぐ作付けが始まる畑から、遠くの山がよく見える。なだらかで山頂が平らな山は「本白根山」である。



本白根山（もとしらねさん）は草津白根山の高峰の一つで、いくつもの火口を持っている。その中の「鏡池北火砕丘」の北側火口壁付近で、1月23日に噴火が起きた。不幸なことに訓練中の自衛隊員が一人亡くなった。そんなことがあったとは思えないほど、残雪の本白根は穏やかな姿を見せていた。